

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600103		
法人名	株式会社実善		
事業所名	京塚温泉グループホーム笑みの里暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町入山3257		
自己評価作成日	令和6年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和6年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所であり四季折々の季節を感じられます。春には敷地内に山菜が顔を出し春の訪れを感じ山菜を取り料理して食べたり、庭先に小さな畑を作り野菜を作ったりお花を植え水やりをしたりしています。庭の散歩時に野菜の成長を観たり、お花を観たり季節を感じています。また地域の協力病院と連携し、月に2回往診に来て頂いています。そして入居者様一人一人に合った介護が出来るようにスタッフ一同連携・相談をし入居者様の状態を把握できるように心掛けています。入居者様が地域の一員である事を忘れない様に今後も、夏祭りや地域合同文化祭に参加したり、地域の歌や踊りなどの慰問ボランティアの方々に来所してもらおうようにします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設より12年が経過し、グループホーム本来の理念についてやるべきことができるようになり、利用者が高齢になり重症化する中、その状態に合った支援を見出し実践につなげている。一例として、失禁が見られる利用者であっても、本人が布製の下着を良しとするならば、管理者、ケアマネジャーが家族と話し合い、本人のプライドを保つため希望に沿った支援に取り組んでいる。年月とともに実績を上げ、事業所、職員がステップを踏みながら成長している様子がうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生活が出来る介護」を理念にしている。入居者への支援が統一し、できる様に申し送り、カンファレンスなどを毎日行っている。	認知症が進み、利用者によっては日ごとに対応を変えなければならない状況にあることから、それぞれの「その人らしさ」を支援するため理念を振り返る場を設け、情報を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	降雪期間以外は近隣を散歩し、地域の方と話をしたり、夏祭りや文化祭等に参加、交流の場を持てるようにしている。また地元のテレビ番組があると、皆さんで見られ、地域の様子を知る事が出来る。	コロナ禍が続き地域との交流はないが、4月から再開を検討している。地域ケア会議に出席し、地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会の会場で皆さまに意見を頂き、サービス向上に努めている。また会場に集まらない時は家族と委員会の状況を書面にて郵送のみ行う。	運営推進会議は書面開催とし、入所者現況報告、誕生日会、敬老会やクリスマス会、ドライブ等の行事や毎日行っている体操や機能訓練、お手伝い作業の様子を報告書にまとめ郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に施設の利用状況など相談を行い、防災訓練などの協力関係を気付いて行けるように心掛けている。	ケアマネジャーが町役場への報告、相談を担当し、介護保険の更新代行や認定調査の立会いをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーマット使用は拘束である事を理解して頂き、家族の同意を得て使用している。スタッフの配置状況により出入口を手動にするよう、心掛けている。	玄関の鍵は午前中は開けている。モニタリングの中で身体拘束適正化委員会、勉強会を開いている。スピーチロックについては、状況によって大きな声で制止する言葉を使ってしまうことがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間で虐待について話し合い、理解を深め虐待防止に努めている。また勉強会に参加したらスタッフ会議の中で勉強会を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要となった場合、関連施設、町の担当者 と相談を行い、協力して行えるように考えて いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約の時は、入居者様、その家族に理解し やすいように説明し、契約が出来るようにし ている。解約の際にも同様な話し合い、合意 の上で解約を行えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員な らびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営 に反映させている	苦情の申立ての説明をしている。また入居 者様、ご家族様にどの様な要望があるか会 話の中でくみ取れるように心掛けている。	家族からは直接合った際に、意見や要望を 聞き、利用者と一緒に外出や外泊をする機 会につなげている。利用者から具体的に食 事の希望があれば配食を止めて、要望に応 えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り等で情報交換や相談など共 有出来るようにしている。またスタッフからの 業務改善やちょっとした気づきなどあれば話 し合いより良い運営が出来るように心掛け ている。	スタッフ会議や朝、夕の申し送りの際、職員か ら意見や提案があり、利用者の個別の支援 について情報を共有し、運営や業務、支援の 改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・ 条件の整備に努めている	スタッフ個々の状況を把握し意見を聴きな がら向上心を持って働ける職場環境になる ように努めている。また状況に応じて実践を 評価し昇給を考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	外部の研修や勉強会、交流会に参加して もらえるよう促し、技術・知識・質の向上に向 け実践に繋がるように考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	町や近隣の病院のソーシャルワーカーから 情報交換会などの案内を頂き参加すること で質の向上になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様に対しては事前にスタッフ間で情報を確認している。入居後は慣れるまで表情や言動を観察し声掛けし安心して生活が出来るよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様、ご家族様に会い入居前の生活状況を伺い、何に困っているのか 何を必要としているのか確認しそれに合ったサービスが出来るように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を伺いそれに合ったサービスの提供が出来るように努めている。入居後も希望に沿って生活が出来るように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日がマンネリ化しない様に苦痛にならない様に嗜好に合った暮らしやすい環境を整え、その人に合った接し方をする様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には生活情報や食事の変更など常にお話をしてご意見を伺い今の生活が良い状態である様に共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様と馴染みの人、場所との関係性を理解し支援に努めている。	家族や孫、親戚の面会や手紙が届く利用者もいて、馴染みの関係継続を支援している。また、好みの飲料を飲んだり、新聞を読む習慣や身の回りの整理、洗濯畳み等が続いている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のトラブルが起きない様に入居者様同士の性格の不一致や言動に日々注意している。また入居者様同士で助け合い生活が出来るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了の際には、終了後も相談しやすいように声掛けをする様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様がどのような生活を望んでいるか入居前に確認し、希望に沿った生活が出来るようにしている。	利用者や家族と直接話をする中で、思いや意向の把握に努め、ケアマネジャー、職員が情報を共有し介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の生活歴や面会時に聴いた情報を共有しその方らしい生活が出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や往診・受診した情報などを記録し共有、現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様本人、家族、必要関係者と話し合い意見や要望を聞いた上でご本人様にとってより良い生活が送れるように介護計画を作成している。	毎月モニタリングをし、3ヶ月ごとにアセスメントを行い、担当者会議を開き介護計画の見直しをしている。その際、家族に希望を確認し、職員からの情報をケアマネジャーが集約し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況やADL、往診時の様子など状態把握をスタッフ間で徹底しており、状態の変化があれば話し合い介護計画作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が日々の生活の中で生じる様々なニーズに寄り添えるような柔軟なサービス提供が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を理解した上で活用し、入居者様が穏やかに安心して生活ができるように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居説明の時にかかりつけ医の確認を行っている。協力病院の受診で良ければ月に2回の往診があると説明し入居者様や家族に希望を聴き適切な医療を受けられる様に努めている。	協力医による月2回の往診があることを家族に伝えた上で、付添いが必要となるがこれまでのかかりつけ医も継続できることを説明している。歯科については必要に応じて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診の時は看護職員が立ち会い状態把握ノートに記入しスタッフ間で共有し施設内でも的確な看護が提供出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際には入院先の地域医療連携室と連携を取り入居中の情報や入院先での情報を交換、把握しあい入居者様が早期に退院出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化、終末期には今後起こりうる状態をご本人様、ご家族様、協力病院、地域関係者と話し合い適切な支援が出来るように考えている。	看取りについては、家族から段階的に希望を聞き、支援が必要になった場合、家族と主治医が面談し、主治医の判断に基づいて実施している。現在、看取り指針を作成している。	看取り指針を作成し、終末期において利用者、家族の希望に応える支援をするため、事業所としての方針を示す取り組みをしてはいかか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時対応のマニュアルを作成しスタッフ間で共有している。救急車の要請マニュアルを作成、どのスタッフでも対応できるように掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している小規模多機能と強力し避難訓練をしている。火災、水害を分けて訓練し京塚の公民館に避難出来るように地域と連携している。また食糧や水、オムツなどの備品は用意している。	年2回の総合避難訓練を隣接する小規模多機能施設と合同で実施している。緊急時の避難場所は確認済みで、移動の訓練もしている。備蓄の食糧品は職員が話し合っ決めて備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの人間性を尊重し声掛けを行っている。また個々に過ごされる時間を作り、傾聴するなどし安心して生活できるようにしている。	自分がどうしたいか、利用者の意思を尊重し、思うように自由に過ごせるよう支援している。排泄の際は利用者への声かけを工夫し、自尊心を傷つけない対応をし、呼称はさん付けを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが余裕を持って行動し落ち着いて対応できるように心掛けている。その時々で入居者様が思っている事、感じている事などを話しやすい環境や人間関係を築けるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を聴き希望に沿った生活が送れるよう日々取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師による散髪訪問があり希望の髪型が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう、毎日の献立を掲示し食事の前に読み上げ、献立にまつわる話をしている。食後には要望に応じスタッフと一緒にお膳を下げたりテーブルを拭いたりしている。	献立は決まっており、届いた食材を職員が調理し提供しているが、食止めをして時季や行事に合った食事を提供することもある。利用者によって梅干等好みの物を加えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は毎日観察し水分補給状況は年間を通し観察し飲み物の種類を増やしたり好みや健康状態に合わせ摂取出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別に声掛けし口腔ケアを行っている。入居者様個々のADLに合わせた見守りや介助を行い口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様それぞれの排泄動作を把握しその方に合った支援が行えるように努めている。そして入居者様の状態の変化などがあった場合その都度検討するよう心掛けている。	利用者がいつまでもトイレで排泄できるよう、チェック表に基づいて日中はトイレ誘導している。夜間パット交換を必要とする場合もある。利用者には自分でできることはしてもらう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の予防改善には心掛け排便チェック表を作成。1日1リットルの水分摂取や定期的な運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は入居者様に毎日声掛けし希望する日に体調を観ながら入浴を実施している。	入浴は毎日、午前10時前後、あるいは日によって午後実施している。拒否者はなく、入らないは利用者に関して決めている。特色であった温泉が出なくなり、入浴剤を用いて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安眠出来るよう、ご本人様の使い慣れた寝具を持ち込み可能としている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員で内服薬の情報を共有している。内服薬の変更があった場合は申し送りや状態把握ノートに記入しスタッフが把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や面会時に聴いた情報を元にその方に合った時間を過ごして頂けるよう支援できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望があればその希望に沿って付き添っている。また外出時には家族と連携し外食や自宅に寄るなど希望に沿った外出が出来ように支援している。	敷地内を散歩している。利用者によっては家族と外出をしたり、月1回、自宅に帰って泊まってくる人もいる。外出が季節や天候によるところがあり、暖かくなったら外出ができることを期待している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出先で買い物などする時にはスタッフが付き添い、見守りながら会計をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望がある時は伺っている時間に電話をしている。手紙が来たときは返事を書けるようにスタッフが支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では天窓から自然の光が入る様に成って居る。入居者様一人一人のスペースは広くゆったり過ごせるようになっている。また入居者様と作成した季節の壁画や作品を飾り、春夏は庭先の草花を飾ったりしている。	共用空間にはカレンダーや季節がわかる掲示物、合同で作った作品を飾っている。椅子、テーブル、ソファを真ん中にある柱で分けて配置し、居心地のよい空間作りをし、換気も継続して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では気の合う入居者様同士同じテーブルの席にしたり、誰でも座って過ごせるベンチを設け、気持ち良く過ごせるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具や寝具、食器など持ち込み出来る事を伝えている。また家族やペットなどの写真を飾って過ごしやすい居室作りを心掛けている。	使っていた物を持参してもらえるように説明している。衣装ケースやカラーボックス、足元マット、冷蔵庫等を持ち込んでいる。居室の冷蔵庫にヨーグルトを入れておいたり、週刊誌等を読んでいる人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人の残存機能を理解し、スタッフが共有しそれを踏まえてそれぞれの方に合ったケアを行うように心掛けている。		